学校番号	１００１

令和８年度　キャリア

教科	(学) キャリア	科目	映画学	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

総合芸術である映画は、ストーリー、技術、演出、映画史、ジャンル論など様々な方面から考察することが可能です。映画学の授業では、古今東西のいろいろな映画作品を紹介、一部分を鑑賞しながら、その作品やシーンについて、あらゆる面からアプローチしていきます。講義スタイルを基本としつつ、毎回の授業ではコミュニケーションペーパーを提出します。担当者と意見交換を行うことで、主体的な「読み」を定着させ、映画の表層を超えた部分について言及、想像するクリエイティブな思考を身に着けることが、この授業最大の狙いです。

2　学習の到達目標

・「意味」を探し出すスキルを養う。「面白さ」を追求する心を養う。

……映像から、物語から、音楽から、演出から、そこに込められた「意味」を考える。

・様々な観点からの考察を行う

……映画は「総合芸術」。その多様性ゆえに、いろんな要素について考えを深められる。

・意見を交換し、視野を広げて考える。コミュニケーション力の充実。

……様々な見方ができる「映画」を通じて、様々な考え方をするクラスメイトと論議する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	映画を考察する上での知識や、映画史の概観について知る。 得た知識を、今後の考察に役立てられるよう、整理する。	映画作品やシーンについて、その価値や意図、凝らされた工夫について考え、それを自分の言葉で表現する。	コミュニケーションペーパーを通じた意見交換を行い、担当者やクラス生徒と情報や考えを共有する。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
前期	映画を読解するための基本知識について学ぶ ［教材］ 「アニメーション」 「映画音楽」 「映画の色」 「字幕吹替問題」	a:映画についての知識を得て、考察に役立てられるように正しく整理する。 b: 作品やシーンの、どういった部分が面白いのか、どんなところに工夫があるのかについて、自分の言葉で表現することができる。 c:コミュニケーションペーパー等を通して、自分の映画体験に基づく意見や考えを共有する。	テスト	テスト コミュニケーションペーパー	提出物 コミュニケーションペーパー
後期	総合的に映画を考察する。 ［教材］ 「ホラー映画を怖くする方法」 「怪獣映画をリアルにする方法」 「映画におけるジョーカー」 「タイムトラベル映画」 「映画の続編問題」ほか	a:映画についての知識を得て、考察に役立てられるように正しく整理する。 b: 作品やシーンの、どういった部分が面白いのか、どんなところに工夫があるのかについて、自分の言葉で表現することができる。 c:コミュニケーションペーパー等を通して、自分の映画体験に基づく意見や考えを共有する。	テスト	テスト コミュニケーションペーパー	提出物 コミュニケーションペーパー

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度